

教員の ICT 活用の意欲を高めるために

意図的・計画的に行う「放課後研修」

B:校内研修Ⅱ型（講師設定型の研修）

このような教員の姿が生まれました！

- 「支援ツールを使ってこのような活用をしてみたら、子どもがとても意欲的に取り組むようになりました。」など、日常的に活用に関する教員間の交流が増えました。
- 「この教科や授業でも使ってみよう。」という意欲的な教員の姿が増えました。

打合せ後の職員室や放課後の教室で、計画的に研修を行う

ICT 活用推進担当が中心となり、協働学習支援ツールの機能をピックアップし、計画的に研修を行う。

- ・全ての教員ではなく、ICT 活用に不安を感じている教員を中心に打合せ後の職員室や放課後の教室を用いて、活用できるアプリの使い方を研修する。
- ・近くにいる教員と相談しながら研修を進め、分からないことを聞きやすいように ICT 活用推進担当や活用できる教員が巡回しながら研修を行う。

日にち	使用アプリ	内容
8/24	Gmail	タグ作成、自動振り分けの設定
8/31	classroom	作成方法、参加、基本操作
9/2	classroom	課題作成
9/14	Jamboard	機能確認
9/22	Jamboard	課題作成
9/30	Jamboard	共有方法
10/5	Forms	アンケートの種類
10/21	Forms	アンケートの作成
11/11	Forms	図や写真の挿入
11/30	Forms	質問の分岐方法
12/14	Forms	テストの作成方法とスプレッドシート

「ICT 活用研修」を行う際のポイント

- 受講する教員の負担が大きにならないように、内容を絞って、できるだけ短時間で研修を行う。
- ICT活用推進担当が話す時間を極力減らし、実際にアプリや機能进行操作する時間を確保する。

「ICT 活用研修」による効果



教員間でICTを活用した授業について日常的な交流が増え、有効な情報共有につながる。

- ・「今日、社会の授業でJamboardを使ってみたら、子どもたちの意見を簡単に共有することができた。」「Formsでアンケートを作って、係の選出に使ってみた。」など、教員同士で、教材の作成方法や機能の活用方法について、積極的に情報共有する場面が見られるようになった。
- ・研修で学んだアプリや機能を活用してみた結果や感想を交流する姿が増えたことで、さらに使い方の共有や使い方の相談など活用に関する交流が生まれ、情報共有が行われるようになった。

日常的な交流の中で得た新しい情報を活用しようという教員の主体的な姿につながる。

- ・Classroomで資料を配付してみよう。
- ・Classroomで課題を出し、レポートを提出させてみよう。
- ・Jamboardを使って、資料の共有化を図ってみよう。
- ・Formsでレディネステストを作ってみよう。

※研修後、意欲的に活用しようとする姿が多くなった。

ICT 活用推進担当の指導のポイント

- 実践した教員の話聞く中で、その先生の意図を共有しながら、他の教員にも活用方法を共有できるようにする。